2015
Vol.14

九大別府病院だより

Kyushu University Beppu Hospital

❷「おんけん同門会」“あの頃と今”
～横井内科クリニック 院長～
❹ マンモグラフィ装置等の紹介
❺ ピロリ菌検査で胃がん早期発見へ
❻「紹介元の医療機関のご紹介」
～石川胃腸科医院 副院長～
❽「第３回市民公開講座」開催
❾「サマーコンサート」開催
おんけん症例検討会報告

病院の理念・基本方針

理　念

患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指します。

基本方針

◆地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
◆プライマリ・ケア診療の充実
◆全人的医療が可能な医療人の養成
◆専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
◆国際化の推進
◆生活の質が向上できる医療の提供

患者さんの権利と責務

私どもは患者さんの権利を守り、病院の理念に基づいた、公平で良質な医療を提供することを目指します。

九州大学病院別府病院
Kyushu University Beppu Hospital

vol. 2 「おんけん同門会」“あの頃と今”

「インフルエンザワクチンと私」

横井内科クリニック　横 井　忠 滋

私は、昭和44年4月から平成2年9月まで気候内科でお世話になりました。

初代教授は、内科の助教授だった小林幸吉先生で時枝正昭講師、定村章二、原田誠一郎、松本忠雄の諸先生が内科からの移動でした。医局は、古い木造病棟の医師当直室を使用していました。その後、改築計画が実施され、現在の建物となりますが、この間、外来診療はプレハブの外来棟で、病棟は数回の移転を行いました。写真1は、昭和44年夏、内科との合同医局旅行で徳島の阿波踊り見物に行った時のものです

昭和45年に小林教授が退官され、後任に九大第一内科から加地正郎教授が赴任されました。写真2は、昭和46年夏、病棟回診後に九大本学から夏季実習の学生をまじえた写真です。

私は、加地教授の指導の下、インフルエンザワクチンの効果やその適応について調査・研究を行いました。当時、インフルエンザワクチンは、全粒子ワクチンからHAワクチンへの移行期でした。全粒子ワクチンは、ワクチンによる抗体産生は優れているのですが、発熱やワクチン接種局所の痛みや腫脹が10%強の被接種者にみられ、このことから、副作用の少ないワクチンが切望されていました。

そこで、登場したワクチンがインフルエンザウイ

写真2　加地教授回診後、病院玄関前で（昭和46年夏）

インフルエンザワクチン研究会の討論会記録

写真1　内科との合同医局旅行で徳島・阿波踊りへ（昭和44年夏）

ルスをエーテル処理し、ワクチン製造に必要な部分だけを利用したSPワクチン（HAワクチン）です。

私は、インフルエンザワクチン研究会（会長：福見秀雄国立予防衛生研究所所長）加地班の一員として、多くの先輩方に助けられ、インフルエンザワクチンの屋外接種試験を行い、ワクチンの効果や副作用を調査しました。写真3は、現存している266研究室で、気候内科開設時には、研究室が不足しており、病院改築時に使用したプレハブ外来棟を移設して利用しました。また、動物舎には、5～6羽のニワトリを飼育し、毎日、診療終了後にニワトリ赤血球を採取して多くの血清を使用してHIテストを行い、問診票の集計をやりました。

HAワクチンは、同じ量のウイルスでは、抗体産生の点で全粒子ワクチンに劣りますが、副作用は少なくなりました。しかし、ウイルス量を増やすことが可能となり、抗体産生を高めることができ、全粒子ワクチンと同等の抗体産生が確認されました。一方、副作用は被接種者の2～3%程度であり、全粒子ワクチンより少なくなった次第です。そして、HAワクチンは、ハイリスク者（高齢者、慢性疾患保有者、妊婦あるいは小児）にも安全に接種できることになりました。

1987年、カナダで開催された第7回国際ウイルス学会では、重症心身障害児に対するHAワクチン接種の効果と安全性について報告しました。（写真4）

以上、インフルエンザワクチンの改良や安全性調査の面で僅かながら貢献できたことを嬉しく思っています。

写真3　現存する旧プレハブ外来棟を利用した266研究室

写真4　カナダ・エドモントンで開催された第7回国際ウイルス学会会場で

当院におけるマンモグラフィ

診療放射線室
松尾 千尋

マンモグラフィは両側の乳房を圧迫板で強く圧迫した状態で、それぞれ頭尾方向と内外斜位方向に合計4回撮影します。乳房を強く圧迫することで乳腺の重なりが減少し、診断能力が高い画像になります。また放射線の被ばくも低減することができます。乳房の圧迫には多少の痛みを伴いますが、撮影の際には患者さんにわかりやすくご説明し、ご理解を頂いたうえで撮影させていただきます。もし痛みが我慢できない場合は、遠慮なく担当技師にお申し付けください。生理前にはホルモンの関係で乳房が張って、圧迫の際により強く痛むことがありますので、できればその時期を避けて受診して頂くことをお勧めします。

当院では、2014年4月より富士フィルムメディカル社製「AMULET Innovality 」という最新鋭のマンモグラフィ装置を導入しています。この装置は、大分県内にまだ数施設しか導入されていないトモシンセシス（3D撮影）機能が搭載されています。トモシンセシスとは、角度を変えて複数の方向から撮影し、収集したデータを3次元的に再構成して断層像を作成できる機能です。従来のマンモグラフィを２Dマンモグラフィとすれば、トモシンセシスは3Dマンモグラフィということになります。従来の2D撮影では、乳腺との重なりが原因で発見が難しかった病変でも、トモシンセシスでは数十枚の断層画像を作成することで観察しやすくなるため、より精度の高い診断を可能にしています。

2015年４月より日本乳がん検診精度管理中央機構(精中機構)の認定を取得した女性技師（当院では初めての女性技師）として、マンモグラフィを撮影しています。写真のように患者さんにマンモグラフィ専用ケープを着用して頂き、必要以上に肌の露出をさせないなど、女性の視点に立ったきめ細やかな配慮にて優しい雰囲気を整えています。また同機構の認定を取得した医師が読影を行い、乳腺外科医との連携を図っております。当院は乳がん検診の別府市指定医療機関でもありますので、検診の際は電話で事前予約のうえ、ご来院をお願いいたします。

胃がんの超早期診断法の開発を目指して

外科
南 原 翔

私たちは豊後高田市と連携して、胃がんになる可能性がある萎縮性胃炎(前がん病変)の方の血液中に特徴的に認められる物質を調べています。

この研究は、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)と国立がん研究センターの次世代がん診断システム開発事業の助成で行っています。この開発事業では、13種類のがんに特徴的な血液中物質を特定し、それを目印とした検査・治療ができるように開発を進めています。私たちは主に胃がんを担当しています。

目印になる物質は、血液や唾液などの体液中に含まれる「マイクロRNA」で、DNAからタンパク質が作られる際に遺伝情報の伝達役を担っており、昨今注目されている物質です。現在、約2500種類のマイクロRNAが確認されており、がんを含めた様々な病気で特徴的なマイクロRNAが血液中で増加する事が報告されています。

胃がんの原因の約9割がピロリ菌による炎症とされており、炎症が続くと著明な胃粘膜の萎縮を経て、胃がんになるとされています。血液検査などでピロリ菌の有無を調べ、内視鏡検査で萎縮が確認された方は除菌治療を受ける事が推奨されています。1次除菌で約70%、2次除菌でほぼ全ての人が除菌できます。従来のピロリ菌検査では、ピロリ菌の有無は判定できますが、胃粘膜炎症の程度までは判定できませんでした。

豊後高田市は2014年度から16年度まで20歳以上の市民を対象に血液検査によるピロリ菌抗体検査を無料で実施しています。私たちは同市で本年度検査を受けて、陽性と判定された方の血液約500例を解析し、ピロリ菌による胃粘膜炎症の程度と血液中のマイクロRNAの関係を明らかにする予定です。将来的には、体の負担が小さい血液検査で前がん病変の判定を行い、内視鏡検査をしなくても、がんの早期発見・早期治療につながると期待しています。

紹介元の医療機関のご紹介

石川胃腸科医院

院　長　石川　晃　先生
副院長　石川　健二　先生

石川胃腸科医院

石川晃院長（左）と
石川健二副院長（右）

「ここに来てよかった」そう思ってもらえるように。患者さんの立場に立った親身な診療を心掛けています。

当院は1976年に私の父、石川晃が別府市東荘園に開設した19床の有床診療所です。「石川胃腸科医院」の名の通り、消化管疾患を中心に診療していますが、実際は風邪から高血圧・脂質異常症・糖尿病といった生活習慣病の患者さんまで幅広く診療しています。

私は2001年に当時の九州大学生医研腫瘍外科に入局後、大分県立病院外科、国立がんセンター中央病院胃外科・内視鏡科などで主に消化器がんの臨床および研究に従事してきました。2011年から4年間、東葛辻仲病院（千葉県我孫子市）にて、内科・胃腸科・肛門科診療、特に下部・上部消化管内視鏡検査（大腸カメラ・胃カメラ）および肛門手術の研鑽を積み、2015年4月より石川胃腸科医院に副院長として勤務しています。

がんの部位別統計（日本対がん協会、2013年）では、大腸がん・胃がんは男女ともに死因のトップ3に入っており、特に大腸がんは増加傾向にあります。がん治療の理想は“早期発見・早期治療”であり、大腸がん・胃がんは内視鏡検査によってそれが可能です。当院では患者さんの苦痛が少ない内視鏡検査を行っていますので、検診で異常を指摘された方や腹部症状のある方はもちろん、症状がない方でもご心配な方はぜひ一度ご相談ください。当院の大腸カメラは“無送気軸保持短縮法”という痛みの出にくい方法を用いていますので、以前の検査が痛くてつらかった方はぜひ当院で検査を受けてみてください。検査の結果、手術などの治療が必要ながんが見つかった方は、九大別府病院をはじめとするご希望のがん治療専

◆DATA

住所：別府市東荘園５-１

電話：0977-21-5959　FAX：0977-26-4016

資格・所属学会等：

院　長：医学博士、日本消化器がん検診学会指導医、
日本外科学会会員、日本消化器内視鏡学会会員
2007年日本対がん協会賞受賞

副院長：医学博士、日本外科学会専門医、日本消化器内視鏡
学会専門医、日本消化管学会胃腸科認定医、
日本大腸肛門病学会会員、日本消化器病学会会員

ＨＰ：http://ishikawa-ichouka.jimdo.com

◆アクセスMAP

門病院へ責任をもってご紹介いたしますので、安心して当院へお越しください。

排便時に出血する、肛門が痛む、腫れている、何か出てきて押さないと戻らない、残便感がある…など、おしりの悩みはありませんか？日本人の３人に１人はおしりの悩みを抱えていると言われています。多くは痔による症状なのですが、稀にがんが隠れていることがあります。肛門のがんは診察すればすぐにわかります。診察はすぐに終わるので、恥ずかしがらずに診察を受けましょう。診察を受けた方は皆さん「診てもらって安心した、もっと早く来ればよかった」とおっしゃいます。なお、手術を要する痔には、今は切る治療だけでなく、注射で治す方法もあります。当院では原則として入院で手術を行っていますが、お仕事等で入院が困難な方は病状によって日帰り手術も可能ですので、お気軽にご相談ください。

患者さんに安心して診療を受けていただけるようスタッフ一同努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

当院へご紹介いただいている先生方の「紹介元の医療機関のご紹介」を掲載しています。広報誌は、県内の医療機関（病院・医院・クリニック）、九州大学病院本院（福岡）、別府市内の施設関係等に配布しております。掲載をご希望の医療機関は、地域医療連携室（0977-27-2055）までご連絡いただけますようお願いいたします。

（地域医療連携室長　平川　雅和）

第３回 市民公開講座を開催

九州大学医学研究院
消化器･総合外科分野
園田 英人 先生

６月７日(日)別府市亀の井ホテルにおいて、九州大学病院別府病院第３回市民公開講座を開催しました。

この市民公開講座は、平成25年度から当院医療従事スタッフの講演に、学外による特別講演を加えて実施しているものです。

今回は、第３回目として、九州大学医学研究院消化器･総合外科分野外科集学的治療学講座の園田英人先生を招いて、「がんに匂いはありますか？」の特別講演が開催されました。

特別講演に先立ち、三森病院長から挨拶の後、内科、外科、整形外科、放射線科の４診療科から、「難病治療の最前線－内科の取り組み－」、「高齢者のための外科診療」、「腰部脊柱管狭窄症に対する治療」、「当院における放射線治療」について、それぞれ、当院の最新情報が紹介されました。

この後、園田英人先生から、愛犬との出会から、「がんの匂い」に注目し、線虫が尿によって高精度にがんの有無を識別することができることをつきとめられたことや、最新のがん研究についてご講演があり、興味深く聴講させていただきました。また、この技術(n-nose)が実用化されれば、尿１滴でさまざまな早期がんを短時間に安価･高精度に検出が期待されていることなどが、だれにでもわかりやすく説明され、とても有意義な講演会でした。

(文責･別府病院　檜垣俊夫)

サマーコンサート開催

7月9日(木)、外来ロビーで『サマーコンサート』を開催しました。オープニングは、別府大学短期大学部の中川彩子さんのヴァイオリン、金子美和さんのピアノの演奏により、「星に願いを」「情熱大陸」が披露されました。

その後、日本の歌メドレーの演奏では、「浜辺の歌」「夏の思い出」「上を向いて歩こう」などの曲を患者さんと一緒に歌いました。

終始、和やかな雰囲気と美しく素敵なメロディーがしっとりと流れ、外来ロビー全体が魅了されました。

(文責・別府病院　檜垣俊夫)

第10回「おんけん症例検討会」を開催しました。

第10回おんけん症例検討会を、ホテル白菊にて5月25日(月)に開催いたしました。

今回の前半は、外科からの一般演題で、①「術前化学療法を施行した直腸癌の一例」(伊藤修平医師)、②「十二指腸閉塞を契機に発見された膵癌の一例」(井口友宏医師)、③「乳癌症例」(増田隆明医師)の発表を行いました。後半では、「内科における慢性疼痛性疾患について」と題して、内科の前田豊樹医師から特別レクチャーを行いました。

今回、第10回という節目の会を無事終えることができました。これもひとえに先生方が当院の診療にご賛同いただき、支えていただいた賜物と感謝申し上げます。これからもこの会が別府を中心に、県内の医療により良く還元でき、先生方の有意義な勉強会となっていきますよう努力してまいります。

次回は、平成27年10月26日(月)、場所は当院の視聴覚ホールで開催を予定しておりますので、多くの先生方に参加していただきますようお願いいたします。

九州大学病院別府病院　外来診療案内

（平成27年9月1日現在）

科名	診療区分	月	火	水	木	金
内科	リウマチ膠原病 骨粗しょう症	堀内孝彦 木本泰孝	堀内孝彦 前川真貴子 塩沢俊一	木本泰孝 柏戸佑介 塩沢俊一	病棟回診日	堀内孝彦 木本泰孝 前川真貴子
	糖尿病	小柳雅孔 柏戸佑介	前川真貴子	――		小柳雅孔 前川真貴子
	血液病	――	伊藤能清	伊藤能清		伊藤能清
	腫瘍性疾患	田村真吾	田村真吾	――		――
	消化器疾患	瀧澤延喜	田村真吾	――		瀧澤延喜
	循環器・呼吸器	樋口義洋 小柳雅孔	樋口義洋 （新患のみ）	樋口義洋 小柳雅孔（第1･3）	小柳雅孔 （予約のみ）	小柳雅孔
	老年病	前田豊樹	前田豊樹	前田豊樹	前田豊樹	――
	睡眠時無呼吸外来	小柳雅孔	樋口義洋	樋口義洋	小柳雅孔	小柳雅孔
	禁煙外来（全予約制）	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
外科	一般 消化管 肛門	三森功士 江口英利 伊藤修平	手術日	三森功士 伊藤修平 井口友宏 林直樹	手術日	三森功士 江口英利 井口友宏
	肝・胆・膵	江口英利		井口友宏		江口英利 井口友宏
	乳腺	三森功士 増田隆明		三森功士 増田隆明		三森功士 増田隆明
麻酔科	疼痛外来（全予約制）	手術日	手術日	大庭由宇吾	手術日	手術日
整形外科	脊椎外科 （全予約制）	手術日	土井俊郎 東野修 樽角清志 大野瑛明	手術日	土井俊郎 東野修 樽角清志	手術日
放射線科	放射線治療	寺嶋広太郎	寺嶋広太郎	――	寺嶋広太郎	――
	放射線画像診断	平川雅和	坂本勝美	平川雅和	平川雅和	平川雅和
共通	上部消化器内視鏡	江口／齋藤	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	瀧澤／田村
	下部消化器内視鏡	坂本／齋藤	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	瀧澤／田村
	EMR/ESD	坂本／瀧澤	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	坂本／瀧澤
	ERCP	――	――	――	――	――
	セカンドオピニオン	要予約				

※担当医は変更となる場合がありますのでご了承ください。

初診・再診の受付時間 8:30～12:00

・整形(火･木)ー完全予約制：地域医療連携室へ要Tel
・麻酔(水)　ー完全予約制：地域医療連携室へ要Tel
・放射線治療(月･火･木)ー初診 8:30～11:00

※但し土日、祝祭日は休診（急患は除く）代表電話：0977-27-1600、地域医療連携室：フリーダイヤル：0120-272-518、直通：0977-27-2055

地域医療連携室より 問合せ先ご案内

◆CT・MR・内視鏡検査のご依頼

放射線科受付 0977-27-1722（直通）

・検査依頼は、電話にて受け付けております。依頼検査優先時間帯を設けています。
・結果は、CDデータ、報告書とともに、ご依頼いただきました先生方へ迅速にお返事いたします。

◆放射線治療のご依頼

地域医療連携室 0120-272-518（専用）
0977-27-2055

・乳癌、食道癌、肺癌、前立腺癌、悪性リンパ腫、癌性疼痛に対する緩和治療、その他の悪性腫瘍についてはご相談ください。
・放射線治療の診療は、事前に連絡をいただければ、待ち時間が少なくなるよう配慮させていただきます。

その他、外来・入院に関するお問い合わせ

月～金　8:30～17:00　0120-272-518（専用）
TEL：0977-27-2055（直通）　FAX：0977-27-3008（24時間受信可）

九州大学病院別府病院
Kyushu University Beppu Hospital
〒874-0838　別府市大字鶴見字鶴見原 4546 番地
代表　TEL 0977-27-1600
URL　http://www.beppu.hosp.kyushu-u.ac.jp/